

ホクレン営農支援情報

(2022年6月号)

●令和3年度の「野菜類・花き試験成績書」をホクレンインフォメーション

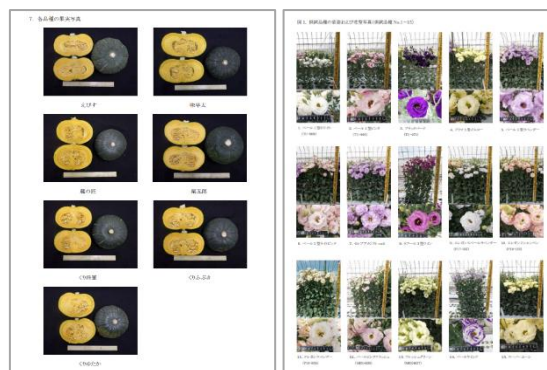
サイトで公開中 《園芸作物開発課》

ホクレン園芸作物開発課では、北海道の気候に適し、収量や品質、耐病性などに優れた野菜類や花きの品種選定試験を実施しています。

この度、令和3年度の試験成績がまとまり、結果をホクレンインフォメーションサイトで公開しています。成績書は、全ページを通して見られるほか、クリックした品目だけ見することもできます。営農の手掛かりとして、作目や品種選びの参考に、ぜひ、ご活用ください。

ご意見、ご質問がございましたら、園芸作物開発課（TEL:0123-88-1990）までお問い合わせください。

掲載内容	ページ
令和3年度気象経過表	P1
玉ねぎの試験	P2～P6
人参の試験	P7～P22
スイートコーンの試験	P23～P29
ブロッコリーの試験	P30～P36
かぼちゃの試験	P37～P46
スターチス・シヌアータの試験	P47～P60
トルコギキョウの試験	P61～P73



ホクレンインフォメーションサイト URL
https://hokurennews.jp/news_detail/id=634



●宗谷地区スマート酪農Webセミナーの動画を公開中《稚内支所営農支援室》

スマート農業に関わる知識の習得や普及促進を目的として、今年2月25日に開催した「宗谷地区スマート酪農 Web セミナー」（主催 宗谷地区農業協同組合長会）の動画をYouTube内のホクレン アグリポートチャンネルで公開しました。酪農分野での、スマート農業に関わる技術を多数紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

No	公開している動画
1	主催者挨拶
2	乳牛歩行映像による蹄の疾病発見 第1部～第3部
3	酪農生産のDX化について 第1部～第3部
4	ローカル5Gについての取り組み
5	酪農×5G活用事例のご紹介 -ホクレン訓子府実証農場におけるローカル5Gを活用した牛群センシング-
6	使って得する！脂肪酸組成 -脂肪酸組成でなにがわかる？-牛群検定 Web システムDLでデノボを確認！ 基礎編と活用編
7	『レポサクのご紹介』
8	『ドローンを用いた放牧業務効率化実証実験』
9	『家畜統合管理システムの概要』
10	『妊娠確認の負担軽減！「PAGs 検査」の活用方法』



宗谷地区スマート酪農 Web セミナー動画
2次元コード



●新規就農希望者向けに「ミニトマト・大玉トマトの栽培管理」をテーマとした農作業体験を実施します 《営農技術課》

農業を始めたい人からは、何から始めたら良いかが分からないという声がよく聞かれます。この度、ホクレン営農技術課では、そうした方々を対象に農業を身近に感じてもらうための農作業体験を実施します。今年度のテーマは「ミニトマト・大玉トマトの栽培管理」で、「摘葉、誘引等の管理作業」、「収穫作業」、「施設栽培に関する施設や機器の基本知識習得」などで作業を交えながら栽培管理についてお伝えします。

場所はホクレン長沼研究農場で、開催時間は約2時間。作業体験に加え、情報交換の時間もあります。体験日は7月から9月にかけて多く用意（詳しくは右の案内を参照）しており、1日当たり定員2名となります。

申し込みは農作業体験希望日の2週間前までに、営農技術課（TEL:0123-88-3330）にご連絡ください。



ホクレン長沼研究農場での農作業体験

<体験できる内容>
「ミニトマト・大玉トマトの栽培管理」

- ・摘葉、誘引等の管理作業
- ・収穫作業
- ・施設栽培に関する施設や機器の基本知識習得

<令和4年 体験日>

7月は 12日（火）・14日（木）・26日（火）・28日（木）
8月は 9日（火）・23日（火）・25日（木）・30日（火）
9月は 1日（木）・6日（火）・8日（木）・13日（火）
15日（木）・27日（火）・29日（木）

- 開催時間
13時30分から15時30分
（作業体験等1時間、情報交換等1時間）
- 申し込み方法
作業体験希望日の2週間前までに連絡ください。
1日当たり2名を定員としており、希望に沿えない場合もございます。
- 来場方法
自家用車にて来場願います。
- 必要なもの
作業しやすい服装と帽子の着用をお願いします。長靴はお貸しします。

<お問い合わせ先>
ホクレン農業総合研究所
長沼研究農場 営農技術課
電話番号 0123-88-3330
Eメール einougijyutu@hokuren.jp



長沼研究農場
農作業体験案内チラシ

●労働力不足解消に向け、パートナー企業との業務提携開始 《営農支援推進課》

北農5連（JA 北海道信連・JA 共済連北海道・JA 北海道厚生連・JA 北海道中央会・ホクレン）で構成する、北農5連 JA 営農サポート協議会では、農業現場の労働力不足に対応するため2019年度からJA等による人材確保の取り組みを後押ししてきました。今年度、新たな農業労働力対策事業の一環として、パートナー企業4社（株式会社JTB、鎌倉インダストリーズ株式会社、キャリアバンク株式会社、YUIME 株式会社）と連携し生産現場での人

材確保や人材提供の取り組みを開始しました。各社は、それぞれの強みを生かし、生産現場に合う人材を探すよう尽力します。活用を希望される JA は、ホクレン支所営農支援室までお問い合わせください。

なお、パートナー企業の雇用形態の違いやそれぞれの特徴については、アグリポート VOL.37（2022年6月1日発行）で解説しています。ぜひ、ご覧ください。

アグリポート VOL.37 URL
<https://www.hokuren.or.jp/kouho/ap>



●アグリポート VOL.37 を発刊 《営農支援推進課》

6月1日にアグリポート VOL.37 を発刊しました。今回の特集は、「温暖化から北海道農業を守る14のこと」です。北海道の気候は明らかに変わってきており、農業も気候変動に対応していくことが欠かせません。最近の気象研究から変化する病害虫への対応、栽培、飼養管理や熱中症の対策まで、温暖化に備えるために知っておきたいポイントをまとめています。

そのほか、「道産品のカタチ」では暑い季節にぴったりの「ホクレン 北海道産小麦きたほなみ使用 乾麺シリーズ（ひやむぎ・うどん・そうめん）」を製造している株式会社マルナカを取り上げています。ぜひ、ご覧ください。



●外敵から営農を守るためのツール 《営農支援推進課》

野生生物による農業被害は全道で 47 億円（2019 年）と、捕獲や駆除などの対策は行われていますが、なかなか被害が減っていません。また、鳥獣害とは別に近年は、農作物や家畜の盗難なども発生しています。2021 年 6 月に発行したアグリポート VOL.31 特集では「外敵から営農を守る」として、こうした外敵から農作物を守る対策などを紹介しています。ぜひ、参考にしてみてください。

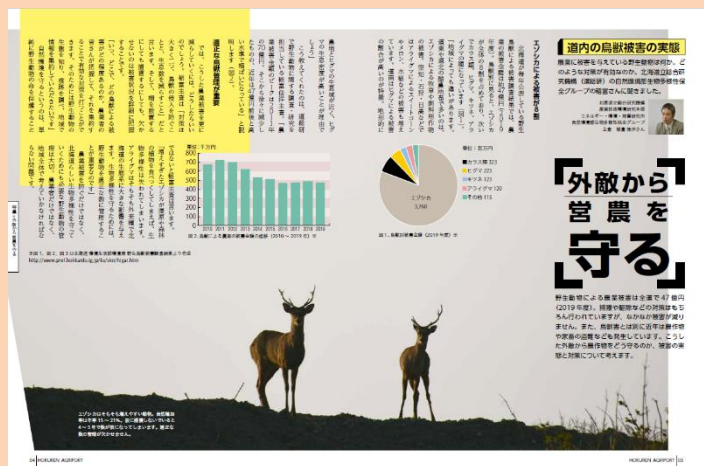
バックナンバー アグリポート VOL.31

特集「外敵から営農を守る」

- 道内の鳥獣被害の実態
- 地域ぐるみのエゾシカ対策
- 捕獲に必要な免許と手続き
- 盗難や犯罪を防ぐために



<https://www.hokuren.or.jp/kouho/ap/backnumber/31.pdf#page=4>



ホクレンの営農情報誌「アグリポート」 明日に役立つ、“わかる” 営農情報を掲載！

なるほど!

アグリポート
ホームページ

YouTube
チャンネル

YouTube は Google LLC の商標です

発行：ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. einousiensuisin@hokuren.jp